

## Ⅲ NWEC 実践報告

---

## 第7章

# NWECのアーカイブ研修を振り返る

森 未知

### 1 はじめに

国立女性教育会館（以下、NWEC）では、第2期中期目標期間（2006～2010年）から、目標に「過去の歴史の検証にもとづき現代の問題へのアプローチを可能にするため、女性の歴史の記録を次代に伝えていく女性アーカイブの構築を進める」が入り、女性アーカイブの構築に取り組むこととなった。その前年の2005年から2年間「女性アーカイブセンター機能に関する調査研究」を実施し、報告書には、女性アーカイブセンターの機能の1つに「地方における女性アーカイブ構築と連携の促進」として、「地方における女性アーカイブ構築を促進するため、NWECにおける女性アーカイブ構築のノウハウをもとに、資料の保存、電子化、目録データベース作成等に関する助言・指導・研修等を行う」ことが書かれた。

女性アーカイブセンターは2008年に開設、翌2009年度に「女性情報アーキビスト養成講座」を開催し、以降、名称等を変更しながら12年が経過した。今年度、第5期中期目標期間（2021～2025年）の開始にあたり、本研修のこれまでを振り返る。

## 2 女性情報アーキビスト入門講座 (2009年度～2010年度)

### 2009年度「女性情報アーキビスト入門講座」

2009年度は「女性情報アーキビスト入門講座」という名称で、2007～2009年度科学研究費補助金(基盤研究(B))「女性アーカイブの構築とその活用に関する実践的研究」の成果普及事業として試行した。

女性情報とは「女性の地位向上、女性問題解決のために必要な情報を女性の視点で作成し、提供する情報」(縫田 1999: 227-228)である。アーキビストは「文書管理の専門家。公文書館や古文書館などの専門職員のほか、官公庁において公文書の管理と保管、あるいはその公開サービスにかかわる業務に従事する者や、企業などの文書管理担当者も含まれる。一般には、文書類の鑑定、評価、収集、整理、保管(分類、目録などの作業を含む)、公開や提供(展示、出版、あるいは管理している文書の内容に関する情報提供サービスなどを含む)などが主要な任務とされている」(『図書館情報学用語辞典 第5版』)と定義される。欧米ではアーカイブズ学を専攻したものが就く専門職であるが、日本では司書や学芸員のような公的な資格はなかった。2008年4月、日本で初めて「アーカイブズ学専攻」(Graduate Course in Archival Science)の名称を付けた大学院専門課程が学習院大学に開設された。そして2020年、国立公文書館が「公文書等の管理に関する専門職員に係る強化方策として、国民共有の知的資源である公文書等の適正な管理を支援、かつ永続的な保存と利用を確かなものとする専門職を確立するとともに、その信頼性及び専門性を確保するため、『アーキビスト認証の実施について』(令和2年3月24日、国立公文書館長決定)に基づき、令和2年度からアーキビストの認証を開始」し、190名の認証アーキビストが誕生したところである。

初回の実施要項では、次のように呼びかけられており、「女性情報アーキビスト」という新しい専門職を作ろうという心意気がうかがえる。

女性の歴史を今に生かし、未来につないでいくためには、女性に関わる原資料（女性アーカイブ）の適切な保存と活用が必要です。独立行政法人国立女性教育会館は、女性アーカイブの保存・提供に携わる実務者の方を対象に、具体的な保存技術や整理方法をご紹介します、実務者同士の情報交換を行うことを目的として、標記の研修を実施します。

「アーカイブの保存や整理は難しい」「予算も人手も十分でない」などとお悩みの皆様、一緒にネットワークをつくりませんか？そして、できることから始めてみましょう。今日から、あなたが「女性情報アーキビスト」です。

参加者は、募集50名に対し80名（但し全日程参加は52名、8・9日いずれか1日のみが28名）、北海道から長崎県まで、全国各地からの参加を得た。所属で一番多かったのは、1998年「全国女性史研究交流のつどい第7回（神奈川）」以降毎回「女性史資料の保存・公開についてのアピール」、そして第10回（奈良）では「国立女性教育会館に「女性アーカイブセンター」設立要望書」を出した地域女性史関係者で22名を占めた。その他、女性関連施設職員、大学等資料室、学生、図書館員、女性団体など、様々な属性の参加があった。

### 2010年度「女性情報アーキビスト入門講座」

2010年度は前年度と同じ名称、構成で実施した。10月末に開催し、前回は同年2月で開催が近かったためか、募集50名に対し参加者は37名と少なかったが、満足度は100%（非常に満足67%、満足33%）であった。所属は女性関連施設が最も多く、ほか大学史資料室・図書館、地域女性史関係者で、東京・埼玉が大半であった。情報交換会では、小金井女性史を作る会編フォトムービー「写真でたどる小金井の女性たち」の抜粋版の上映を行い、「た

くさんの方と話ができ良かった」「情報交換は大切な時間と感じた」など、人数が少ないことによりじっくり話ができたと高い満足度につながったとみられる。

### 3 女性情報アーキビスト養成研修（2011年度～2015年度）

#### 2011年度「女性情報アーキビスト養成研修（入門）」

第3期中期目標期間の5年間は「女性情報アーキビスト養成研修」という名称で実施した。「講座」から、職務上必要とされる知識や技能を高めるために、ある期間特別に勉強や実習をする「研修」へという変更であった。

第3期中期計画では「女性アーカイブの保存・提供に携わる実務者を対象に、具体的な保存技術や整理方法の研修を実施し、中期目標期間中に女性アーカイブの基本知識を伝える学習の場を100名以上に提供するとともに、実務者同士の情報交換の場を提供することでネットワークづくりを推進し、全国的に女性関連史・資料の保存のための基盤作りを支援する」と書かれ、評価されることとなった。

2011年度は東日本大震災後であり、「災害経験を通して災害に備える」をテーマとした。

主な参加者は女性関連施設、大学史資料室・図書館職員で、関東が中心であったが、東北、近畿等からからの参加もあった。アンケートの有用度は97.2%と高く、特に東日本大震災の文化財レスキューに携わっている青木陸氏の「アーカイブの危機管理」は、現場の貴重な画像もあり、非常に有用が8割を超えた。

#### 2012年度「女性情報アーキビスト養成研修（入門）＋（実技コース）」

2012年度、「入門」修了者を対象に、要望の高かった実技コースを試験的に実施した（以降、2019年度まで実施）。

入門はテーマを設けず、概論、著作権、写真の保存の講義と、事例報告2

Ⅲ NWEC 実践報告

表1 NWECアーカイブ研修変遷

中期計画	第2期		第3期			
	2009 (H21)	2010 (H22)	2011 (H23)	2012 (H24)	2013 (H25)	2014 (H26)
年度	2009 (H21)	2010 (H22)	2011 (H23)	2012 (H24)	2013 (H25)	2014 (H26)
日程	2010/2/8-9	10/27-28	12/1-2	12/5-7	12/4-6	12/10-12
名称	女性情報アーキスト入門講座 (試行)	女性情報アーキスト入門講座	女性情報アーキスト養成研修 (入門) + (実技コース)	女性情報アーキスト養成研修 (入門)	女性情報アーキスト養成研修 (入門) + (実技コース)	女性情報アーキスト養成研修 (基礎コース) + (実技コース)
参加者数 (女性/男性)	80 (76/4)	37 (34/3)	39 (35/4)	入門32 (30/2) 実技コース12 (12/0)	入門30 (28/2) 実技コース11 (10/1)	基礎コース27 (25/2) 実技コース10 (10/0)
概論	国際資料研究所代表 小川千代子		上智大学教授 大澤正昭	東京大学史料編纂所教授 久留島典子	立教大学共生社会研究センター学術調査員 平野 泉	立教大学共生社会研究センター学術調査員 平野 泉
著作権	国立国会図書館 南 亮一	政策研究大学院大学教授 國本 薫	放送大学教授 尾崎史郎	横浜国立大学教授 川瀬 真	東京六本木法律特許事務所弁護士 早稲田祐美子	のぞみ総合法律事務所弁護士 竹内千春
資料の保存・管理方法	紙資料：資料保存器材 木部 徹	紙資料：資料保存器材 木部 徹	紙資料：資料保存器材 木部 徹	写真：東京国立博物館 保存修復課主任研究員 荒木巨紀	紙資料：資料修復工房代表 花谷敦子	紙資料：日本図書館協会資料保存委員会委員長 眞野節雄
資料の保存・管理方法	マイクロフィルム・写真：富士フィルム (株) 黒木信宏	写真：堀内カラー 肥田 康	フィルム・写真編：堀内カラー 肥田 康	フィルム・写真編：堀内カラー 肥田 康	フィルム・写真編：東京国立近代美術館フィルムセンター主任研究員 岡田秀則	フィルム・映像編：東京国立近代美術館フィルムセンター主任研究員 岡田秀則
資料の保存・管理方法	目録編成：国立女性教育会館 西村昭子					
事例報告	国立女性教育会館 情報課長 江川和子	女性のための映像アーカイブの活用：元NHKアーカイブス 池田忠理子	国立女性教育会館 情報課長 市村櫻子	せんだいメディアテーク 企画・活動支援室長 伊東賢治	ひなぎく：国立国会図書館 電子情報部 長崎理絵	東洋英和女学院史料室 酒井ふみよ
事例報告		情報発信：浪沢栄一 記念財団実業氏研究 情報センター 門倉百合子		国立女性教育会館 情報課長 市村櫻子	国立女性教育会館 情報課長 大澤正男	聖路加国際大学学術情報センター大学史 編纂・資料室 新沼久美
事例報告		国立女性教育会館 情報課長 市村櫻子			デジタルアーカイブによる企業デザイン：レ・サンク 坂本洋代	アーカイブの広報：エル・ライブラリー (大阪 産業労働資料館) 館長 谷合佳代子
事例報告					呉YWCA 総幹事 平城智恵子	
講義		英国の女性アーカイブズ：成城大学兼任講師 富田裕子	大規模災害時における情報の記録・保管・公開およびアーカイブの役割：常磐大学教授 坂井知志			アーカイブの制作：NTTデータ第三公共システム事業部 大場厚志
講義			危機管理：国文学研究資料館准教授 青木 睦			
実技				アーカイブの実践：エセナおたの 幸田静香	展示の手法：空間演出コンサルタント 尼川ゆら	展示の手法：乃村工藝社CC事業本部クリエイティブ局、日本展示学会理事 亀山裕市
実技				デジタルアーカイブシステム：インフォコム株式会社 栗原 浩	紙資料保存の実践：国立公文書館業務課 修復係 阿久津智広	紙資料保存の実践：日本図書館協会資料保存委員会委員長・委員 眞野節雄、佐々木紫乃
実技				デジタル化実習 (ブックスキヤナ)：極東書店 雨谷好倫、石原政学		
実技				紙資料保存の実践：資料保存器材 木部 徹、伊藤美樹		

第7章 NWEC のアーカイブ研修を振り返る

第3期	第4期				
	2015 (H27)	2016 (H28)	2017 (H29)	2018 (H30)	2019 (R1)
12/9-11	11/30-12/2	11/20-22	11/20-22	11/27-29	
女性情報アーキivist養成研修(基礎コース)+(実技コース)	アーカイブ保存修復研修(基礎コース)+(実技コース)	アーカイブ保存修復研修(基礎コース)+(実技コース)	アーカイブ保存修復研修(基礎コース)+(実技コース)	アーカイブ保存修復研修(基礎コース)+(実技コース)	アーカイブ保存修復研修(基礎コース)
基礎コース27(27/0) 実技コース19(19/0)	基礎コース29(28/1) 実技コース25(24/1)	基礎コース35(33/2) 実技コース28(28/0)	基礎コース28(28/0) 実技コース25(23/2)	基礎コース32(30/2) 実技コース26(23/3)	149(133/16)
国際資料研究所代表 ・藤女子大学教授 小川千代子	学習院大学人文科学 研究科アーカイブズ学 専攻 清原和之				デジタルアーカイブ概論: 天理大学教授 古賀 崇
骨董通り法律事務所 弁護士 小林利明			文化庁著作権課 渡辺優加	東洋大学准教授 生員直人	三村小松山縣法律 事務所 弁護士 澤田将史
				史資料保存の考え方 と取組み方:専門図書館 協議会顧問、元国立国 会図書館副館長 安江明夫	
フィルム・写真、 デジタルアーカイブ: 掘内カラー 肥田 康		写真・フィルム:東京都 写真美術館保存科学専 門員/日本写真保存セン ター諮問委員 山口孝子			
市川房枝記念会女性 と政治センター 山口美代子	フェリス学院資料室 鈴木慶子	国立女性教育会館 山崎裕子	活用報告: 女性史研究者 水原紀子	活用事例: 三重の女性史研究会 佐藤ゆかり	実践報告:お茶の次女子 大学 図書・情報課 歴史 資料担当 長嶋健太郎
虎屋文庫 今村規子	オーラル・ヒストリー総合 研究会、地域女性史研究会 宮崎黎子	東京女子医科大学 史料室 油谷順子	実践報告:法政大学 大原社会問題研究所 教授 榎 一江	実践報告:日本女子大学 成瀬記念館 学芸員 岸本美香子	実践報告:NPO法人フォ トボイス・プロジェクト 共同代表 湯前知子
国立女性教育会館 客員研究員 青木玲子	ボラ文化研究所 富澤洋子	震災・まちのアーカイブ 会員/神戸大学地域連 携推進室准教授 佐々木和子	女性アーカイブセンター 10周年:国立女性教育会 館客員研究員 青木玲子	実践報告:WAN ミニコ 図書館館長 境 磯乃	
	男女共同参画と災害・復 興ネットワーク:国立女性 教育会館 客員研究員 青木玲子	デジタルSKIPステー ション(彩の国デジタル アーカイブ) 関口万里			
		国立公文書館公文書 専門官 苑 雅貴	デジタル化の手引: 国立国会図書館関西館 電子図書館課 村松克洋	資料のデジタル撮影の ポイントと注意点:東京 大学経済学部資料室学 術支援職員 岸 剛史	
			デジタルアーカイブ: 国立公文書館業務課 高杉美里		
展示の手法: 空間演出コンサルタント 尼川ゆら	紙資料の修復関連実習: 資料保存器材 伊藤美樹、高田かおる	紙資料の修復関連実習: 資料保存器材 伊藤美樹、高田かおる	紙資料の修復関連実習: 資料保存器材 伊藤美樹、高田かおる	紙資料の修復関連実習: 資料保存器材 伊藤美樹、高田かおる	
紙資料保存の実践: 資料保存器材 伊藤美樹・安藤早紀	オプション 資料保存器材見学会	オプション 資料保存器材見学会	オプション 資料保存器材見学会	オプション 資料保存器材見学会	

件を行った。参加者は前回同様、女性関連施設、大学の史資料室・図書館が多く、東京・埼玉以外は、青森、岩手、福島、静岡、兵庫、広島からの参加があった。

実技コースは、エセナおおたのデジタルアーカイブの実践、そのシステムについてインフォコム株式会社からの説明、最新ブックスキャナーによる資料電子化実演、そして2日目の9時～15時を紙資料保存の実践として、金属除去、ドライクリーニング、様々な資料の綴じ方、紙の破れの補修を行った。満足度は100%（非常に満足70%、満足30%）、特に紙資料保存の実践は9割以上が非常に有用と高い評価を得た。参加者は全員入門から参加し、東京・埼玉以外が半数を占めた。

### 2013年度「女性情報アーキビスト養成研修（入門）＋（実技コース）」

入門は、概論、著作権は例年通りであるが、アーカイブの活用とネットワークとして、国立国会図書館の東日本大震災アーカイブ「ひなぎく」と、「NWEC災害復興支援女性アーカイブ」を紹介した。実践報告は過去の研修参加者を講師として、デジタルアーカイブによる企業デザインと、呉YWCAの女性アーカイブの構築の報告を行った。また資料の保存・管理方法として、紙資料、フィルム・写真の2つの講義を実施した。参加者は女性関連施設、大学の史資料室・図書館が中心であるが、自治体や団体からも参加があった。

実技コースでは、展示物へ人をひきつけるための空間作りについて、実例に則した基礎理論の解説と、NWEC女性アーカイブセンター展示室を会場とした実践的なワークショップを行った。2日目は、ドライクリーニングや金属の除去、和紙の繕い・裏打ち等の紙資料の修復に関わる基礎的な技術について、講師の実演を交えた指導のもとで実習を行った。また、東日本大震災の経験により開発された、水損資料への処置の方法も紹介された。満足度は100%（非常に満足88.9%、満足11.1%）と高い評価を得た。



## 2014年度「女性情報アーキビスト養成研修（基礎コース）＋（実技コース）」

2014年度から入門を「基礎コース」とした。内容は概論、著作権、実践報告は研修修了者を講師として大学史資料室から2件、大阪のエル・ライブラリー館長によるアーカイブの広報、そしてアーカイブの制作としてデジタルアーカイブシステム構築に関する講義と、資料の保存・管理方法として、紙資料、フィルム・映像の2つの講義と、前年度同様、盛りだくさんであった。募集30名に対し27名と定員には満たなかったが、満足度は100%（非常に満足76%、満足24%）と高く、情報交換会が有意義との複数の声があった。参加者は大学史資料室・図書館が10名、女性関連施設が8名、関東以外は石川、愛知、京都、岡山、福岡、長崎、鹿児島からの参加があった。

実技コースも前年度同様、展示の手法と紙資料修復の実践を行った。展示の手法では、展示作りのプロセスの講義の後、企画中の「喜美子さんの家計簿」展を2グループに分かれて自分たちであればどうするか企画し、発表した。「多くの方と意見を交えることができ有意義」と好評であった。

## 2015年度「女性情報アーキビスト養成研修（基礎コース）＋（実技コース）」

2014年度までは、実技コースは、歴代の講師から「大人数になると全員に目が行き届かない」という声があり、定員を10名程度としていた。しかし、実技コースの方が例年人気で早く定員に達すること、2015年度に依頼した講師が「倍の人数でも対応可能」と申し出たことから、定員を20名とした。結果、実技コースは19名の申込があった。

基礎コースは女性関連施設と大学史資料室・図書館が8名ずつ、関東以外からは宮城、秋田、山形、長野、京都、兵庫、長崎からの参加があった。満足度は100%（非常に満足68%、満足32%）であった。

実技コースは2013、2014年度と同様1日目は展示の手法、2日目は紙資料修復の実践を行い、こちらも満足度は100%、しかも非常に満足が9割を

超えた。参加者は図書館（大学、学校、公共）が大半を占め、女性関連施設からは1名のみであった。当時の担当者が女性関連施設の不参加者に理由を聞いたところ、「旅費が職場から出ないため宿泊費が安くても参加できない」「人員に余裕がなく職場を空けられない。遠方なので前泊も必要となるとなおさら」などの回答があったが、同時に「女性に関する資料を寄贈していただくことがあるがどう対処していいか困っている。だからNWECの研修内容には大いに関心があるし、自機関での需要もある。しかしNWECが遠方にあることも相まって、今の状況では参加が難しい」との声もあった。そのため、次年度は基礎コースを東京都内で開催してみることにした。

#### 4 アーカイブ保存修復研修（2016年度～2020年度）

第4期中期目標期間に入った2006年からは、名称を「アーカイブ保存修復研修」とした。地域で女性情報を扱うアーキビストを育てることを目的としていることから、7年間「女性情報アーキビスト」を冠したが、基礎コースの参加者集めが年々苦戦し、「女性」と入っていると男性は参加しにくいのではないかと（2015年度は男性の参加者が基礎コース、実技コースともに0名）、「女性情報」が図書館員には関係ない研修と思われるのでは、またアーキビストという言葉は分かりづらいのではという意見があり、実技コースを人気のある紙資料の修復実習としたことによる変更である。

##### 2016年度「アーカイブ保存修復研修（入門）＋（実技コース）」

この年は基礎コースの参加者増を狙って、会場をNWECではなく、文京区本郷の東京大学伊藤国際学術研究センターの教室を借りて実施した。2015年度の基礎コースアンケートでは、アーカイブ事業を行っている団体の実務担当者による実践報告が特に好評であったため、講義は「アーカイブ概論」の1つに絞り、実践報告を大学資料室、女性史研究会、企業資料室、NPO

の4つ実施した。また新しい試みとして、プログラムの最後に、参加者を複数のグループに分け、各グループに講師を1～2名配置してディスカッションを行った。ディスカッションは、要項では「テーマを決め、講師も交えてグループ別にディスカッションを行います」としていたが、当日はテーマを設定せず、「ささいなことでもいいので各自が職場で感じている問題などを述べ合い、グループ内で解決策を考える」ことを課題とし、まとめの発表も行わなかった。各グループでは、共通の課題を見出して解決策を得るなど、短時間でも充実した話し合いが行われた。参加者は29名と増えなかったが、満足度は100%（非常に満足46.2%、満足53.8%）であった。

都内開催により基礎コースは1泊2日から半日となったため、翌日午前におプションとして都内にある（株）資料保存器材の工房見学会を企画したところ、締切日を待たず定員の20名に達した。工房スペースに限りがあるため、定員を超える受付は行わなかった。見学会はプロの修復作業を間近で見ることができ、大変好評であったため、2019年度まで毎年開催した。

実技コースは2015年度に引き続き、（株）資料保存器材のスタッフに講師を依頼し、図書館の補修に関する実技指導を中心としたプログラムとした。2016年度は定員を超える25名の参加者があった。定員超過によって講師の目が行き届かなくなる可能性が懸念されたが、アンケートでは「大変丁寧にわかりやすく教えていただいた」「細かいところまで指導していただいても満足」「先生の技術を目の前で拝見できてとても勉強になった」など、満足度は100%（非常に満足95.8%、満足4.2%）と高い評価を得た。

情報交換会では複数の参加者から「実技コースを今後もぜひ続けてほしい。無料でこれだけ充実した内容の講義は他にない」「初級・中級・上級と展開してほしい」「回数を増やしてほしい」などの熱心な意見が寄せられた。今回は大学図書館からの参加者が比較的多く、女性関連施設からは少なかったが、女性関連施設職員から「国立国会図書館でも同様の研修を実施しているが、全国の図書館数に比べて研修の定員が非常に少なく、参加できない。NWECで開催するなら今後も参加できる」との意見があった。

### 2017年度「アーカイブ保存修復研修（基礎コース）＋（実技コース）」

2016年度に基礎コースを実践報告メインにしたことへの評価は悪くなかったが、アンケートではアーカイブについての講義も増やしてほしいとの意見が複数寄せられたため、講義を増やした。また、基礎コースを都内で開催したが、参加者は増えず、メリットがあまりない結果となったため、2017年度は基礎・実技ともNWECで実施した。基礎コースは定員30名に35名、実技コースは定員20名に28名が参加し、両コースとも定員を超える応募となった。所属は大学図書館からが増え、女性関連施設からが減った。

2017年度の基礎コースは、講師には質問時間を設けるよう依頼したが、どの講師も時間一杯に話をして質問時間が取れなかったこと、また動画の再生で機器トラブルがあったことなどにより、満足度は91.2%（非常に満足29.4%、満足61.8%）とやや低かった。実技コースも1日だけでもいいから参加したいという希望を受け、定員を超過して受付した受講者が「2日目のみ参加したため思っていたより作業が少なかった」とアンケートで「少し物足りなかった」としたため、満足度が96.1%（非常に満足76.9%、満足19.2%）であった。

### 2018年度「アーカイブ保存修復研修（基礎コース）＋（実技コース）」

2018年度は女性アーカイブセンター開設から10周年であり、基礎コースではその報告を1コマ設けた。実践報告だけではなく、活用報告として、アーカイブ資料の調査研究への活用について、女性史研究者の立場からの報告を加えたところ、「アーカイブの重要性や歴史検証の意義を改めて感じた」「過去の女性の活動がいかに記録されておらず調べるのが難しいか実感した」など好評であった。昨年度の反省を受け、最後の5分程度は質問時間とすることを徹底し、満足度は96.2%（非常に満足42.3%、満足53.9%）である。

実技コースは新たに講師から提案のあった、コンサベーション・バイディングという修理製本方法の実習を中心とする内容とし、2日間通して参加できる方のみ受け付け、満足度は100%（非常に満足83.3%、満足16.7%）と高い

評価を得た。

### 2019年度「アーカイブ保存修復研修（入門）＋（実技コース）」

プログラム企画、講師依頼が順調で、昨年度より募集を早めることができ、例年定員達成に苦戦していた基礎コースも32名と、定員を上回ることができた。

アーカイブの基本となる「史資料保存の考え方と取り組み方」、常に最新の知識が必要となる「著作権」（昨年度は50分）を、1時間半ずつじっくりお話いただいた。昨年度に引き続き、アーカイブ資料の調査研究への活用について、地域女性史研究者の立場からの報告を行い、「アーカイブズをどのように必要としているか、入手しやすい資料、残りやすい資料、探し方など、利用者の視点を詳しく聞けたことが、資料をどう整理・保存を考えるか実務を行う側にとってとても参考になった」など好評であった。ディスカッションはグループを館種によって分け、講師・職員が入り、発表の時間を設けて内容の共有を図った。結果、満足度は100%（非常に満足39.3%、満足60.7%）であった。各プログラムは好評であったが、全体としての意見で「大変刺激的で、講師の先生方の知見の広さや参加者それぞれの気づきなど皆参考になったが、スピードについていけなかったところもあり、スライドを再度みられる機会がほしいものもあった」「研修の名称「保存修復」より、広い範囲の講義内容で、個人的にはありがたいですが、ここまで様々なテーマがあると、もう少しそれぞれのコースがあるとよい」あたりが、非常に満足とはならなかった原因と思われる。

実技コースは、昨年度好評だったコンサベーション・バインディングの実習を再度行った。締め切り前に定員20名に達し、最終的に26名を受け入れた。アンケートでは「単なるHow toはネットからでも情報が得られるが、対面での実技指導は安心感も高く疑問点もすぐ確認できたので非常に良かった」「少し忙しく先生のお話の時間と作業がかぶってしまい、メモする時間がとれなかったりしたのが残念でしたが、内容も目的も実務に役立つ素晴らしい

ものでした」と好評であったが、満足度は非常に満足49.1%、満足50.9%で、昨年度の非常に満足83.3%、満足16.7%に比べ、非常に満足が下がった。人数が多く、昨年度より経験の少ない参加者が多かったことが原因と考えられる。

### 2020年度「アーカイブ保存修復研修」(基礎コース)

2020年度は、新型コロナウイルス感染症拡大により、4月7日緊急事態宣言が出され、集合研修で企画されていたNWECの研修は、オンラインでの実施となった。さらに6月からは宿泊棟に無症状者・軽症者を受け入れることとなったが、このときには実際の利用者はなく、9月から施設の日帰り利用を再開した。しかし、集合研修の再開はまだ難しいとの判断で、11月に予定していた本研修についてもオンラインでの開催となった。

初めてのオンライン研修であったため、プログラムを最小限に絞り、講義は今年度は特に関心が高くなると思われた「デジタルアーカイブ概論」と、毎年公表の「著作権」の2コマとした。実践報告はお茶の水女子大学歴史資料館と、NWEC災害復興支援女性アーカイブでデータを公開しているNPO法人フォトボイス・プロジェクトの2つを取り上げた。

ライブ配信申込みは、昨年度集合研修を下回る27名であったが(当日の参加は24名)、オンデマンド配信(配信期間:2020年11月24日(火)~12月7日(月))は申込みが122名、ライブも含め27都道府県からの申込みを得ることができた(昨年度は13都道府県)。アンケートから、参加したいと思っていたが遠方や時期的な問題で今まで参加できなかったが、今回オンラインだったので参加できたとの回答が複数あり、研修の存在が認識されるようになっていたことがわかった。満足度は93.8%(非常に満足40.6%、満足53.1%)、初めてのオンライン研修であったが、どの講義も充実しており、おおむね満足いただけた。少し物足りなかったとの回答者は、名称にある「保存修復」について学べることを期待して受講したが該当するプログラムがなかった、実技がなかった、オンデマンドで一部視聴できないものがあった、などの理由である。

## 5 第5期の女性アーカイブ研修（2021年度～2025年度）

第4期は、それまでの「女性アーキビスト養成研修」から、名称を「アーカイブ保存修復研修」とした。男性も受講しやすいよう「女性」を外したが、あまり増えなかった（昨年度までで2019年度実技コース26名中3名が最大）。また、保存修復に焦点をあて、特に実技コースは紙資料の修復の実習を行い、毎年大変好評であったが、修復技術に特化した研修をNVECが今後も続けるかどうかは検討が必要である。

そのため第5期は、保存修復を名称から外し、女性アーカイブを所有する施設間のネットワーク形成に重点を移して研修を実施したいと考えている。

内容については、引き続き専門家による講義、女性アーカイブ所蔵機関の実践事例、女性アーカイブ活用報告を柱として考えるが、参加者間のネットワーク構築ができるプログラム等を検討したい。形式としては2020年度はオンライン、オンデマンドで実施し、21年度以降については、コロナ等の情勢と他の研修の実施状況によって検討することとなる。

### 引用・参考文献

第7回全国女性史研究交流のつどい実行委員会編 1999『新ミレニアムへの伝言：

第7回全国女性史研究交流のつどいin かながわ』ドメス出版

<https://s3.ap-northeast-1.amazonaws.com/data.wan.or.jp/uploads/9b5a2f41be667c9c9a555f0be62fa65d.pdf>

第10回全国女性史研究交流のつどい実行委員会編 2006『平和と人権の確立にむけて歴史認識の共有を！：歴史に学び、未来を拓く：第10回全国女性史研究交流のつどいin 奈良報告集』第10回全国女性史研究交流のつどい実行委員会

<https://s3.ap-northeast-1.amazonaws.com/data.wan.or.jp/uploads/d06f6c38cd3840ada51b644088b3925e.pdf>

学習院大学大学院アーカイブズ学専攻編 2010『記録を守り 記憶を伝える—学

### Ⅲ NWEC 実践報告

習院大学大学院アーカイブズ学専攻開設記念誌一』 学習院大学大学院アーカイブズ学専攻

<https://www.gakushuin.ac.jp/univ/g-hum/arch/KaisetsukinenshiForDL.pdf>

細川芽 2019 「女性アーカイブセンター 10周年」『NWEC実践研究』 9号 : 195-214 国立女性教育会館

<http://id.nii.ac.jp/1243/00018815/>

株式会社資料保存器材 2018 「本の綴じ形態を知り、コンサベーション・バインディングを試作する」(2018年度アーカイブ保存修復研修)

<http://id.nii.ac.jp/1243/00018798/>

株式会社資料保存器材 2018 「リンプ・ペーパー・コンサベーション・バインディングを試作する」(2018年度アーカイブ保存修復研修)

<http://id.nii.ac.jp/1243/00018798/>

宮崎黎子 2019 「地域女性史とオーラル・ヒストリー—その展開と保存の可能性をめぐって—」『日本オーラル・ヒストリー研究』 第15号 71-75 日本オーラル・ヒストリー学会

[https://www.jstage.jst.go.jp/article/jjoha/15/0/15\\_71/\\_pdf/-char/en](https://www.jstage.jst.go.jp/article/jjoha/15/0/15_71/_pdf/-char/en)

縫田擘子 1999 『情報との出会い：語り下ろし』 ドメス出版

(もり・みち 国立女性教育会館情報課専門職員)